


国際大会参加報告書

2008年 8月 8日

社団法人 日本ボディビル連盟
会長 玉利 齊 様

報告者 廣田 俊彦 

— 大会名	第42回男子アジアボディビル選手権大会		第10回アジアフィットネス選手権大会		
	第25回女子アジアボディビル選手権大会		第5回アジアボディフィットネス選手権大会		
	第10回マスターズボディビル選手権大会		第21回アジアジュニアボディビル選手権大会		
開催期間	2008年 7月 16日 ~ 2008年 7月 21日				
開催場所	国名: 中国	都市名: 香港			
参加国数	21 カ国		参加選手数	9 名	
役員	役 職 ・ 他				
	団 長	玉利齊	社団法人 日本ボディビル連盟会長		
	監 督	吉田進	社団法人 日本ボディビル連盟副会長		
	コーチ	廣田俊彦	社団法人 日本ボディビル連盟選手強化委員		
	通 訳				
選手名	選手名	所属連盟	カテゴリー	順位	備 考
	近藤賢司	東京	男子70kg級	7位	
	片川淳	山口	男子75kg級	9位	
	今中直博	大阪	男子85kg級	6位	
	下田雅人	社会人	男子80kg級	4位	
	水間詠子	東京	女子52kg級	3位	
	秋山加津美	大阪	女子 55kg級	2位	
	菊池智子	大阪	ミスフィットネス160cm級	6位	
	三國智子	静岡	ミスフィットネス160cm超級	3位	
	菊池智子	大阪	ミスボディフィットネス160cm級	5位	
	三國智子	静岡	ミスボディフィットネス160cm超級	5位	
	森 弘子	東京	ミスボディフィットネス160cm超級	7位	
レポート	<p>今回のアジア大会は一般の部門とマスターズとのダブルエントリーが不可だったため片川選手は75kg級のみ出場となりました。また大会当日、ボディフィットネスにエントリーしていた森弘子選手の名前がリストに載っていないというアクシデントもありました。まず70kg級に出場した近藤選手はラインナップの際下半身のカットでは目を引くのですが下半身を強調すればするほど肩と腕が弱く見えてしまい決勝へは残れませんでした。やはり肩と腕に集中したパンプアップというものも必要となるでしょう。75kg級の片川選手もやはり全身の細さが目立ち比較には呼ばれませんでした。最近の傾向ですが75kg級より70kg級のほうが粒が揃っていて入賞がより困難なようです。80kg級の今中選手はまだごちなさは残っていたものの以前とは見違えるほどのポージングを披露していました。ただサイドトライセップスの時に逆に息を吐き切り、捻りを効かせたテクニックも会得してもらいたいと思います。このようなテクニックは自分よりもすぐれた選手に勝つことも可能にさせます。結果はぎりぎりの6位でした。85kg級の下田選手は仕上がりがこそまだまだでしたがこの階級で4位は見事でした。完璧に仕上がれば優勝も夢ではありません。ただポージングには少し難がありダブルバイセップスポーズをもっと工夫してもらいたいと思います。基本どおり息を吸ってとった方が力強く見えます。女子の部では秋山選手が銀メダル。水間選手とフィットネスの三國選手が銅メダルを獲得しました。今後の課題として早く自分に適した階級を見つけることと、体重をクリアするテクニックなどを身につけることです。さらに目の錯覚を利用したポージングを研究してゆくことも大切だと思います。そうすればアジアに留まらず世界でも活躍できるビルダーが多数誕生する日がやってくると思います。日本ではいまだにオーバオール大会が重要視されていることが世界から遅れをとっている原因の一つだと考えられます。</p>				

※ 本報告書は帰国後1ヵ月以内に大会結果表を添付して日本連盟事務局に提出して下さい。

※ レポート欄が足りない場合は別紙に記入して添付して下さい。